

2021年5月18日発行（通算第554号）

世界情勢ブリーフィング

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

■ ネタニヤフ首相、「ガザ地区への攻撃続ける」 バイデン米大統領は電話で懸念伝達（5月16日付BBC）  
<https://www.bbc.com/japanese/57132210>

エルサレム旧市街のアル=アクサ・モスク近辺では、4月中旬からパレスチナ人とイスラエル警察の衝突が続いていましたが、5月10日に第3次中東戦争でヨルダンから東エルサレムを「奪還」したことを祝う「エルサレムの日」を迎えると、大規模な衝突に至り、300人以上の負傷者が発生しました。これを受け、ガザを実行支配するパレスチナ人武装勢力のハマスがエルサレムと周辺地域にロケット弾攻撃を行いました。

イスラエルはミサイル防衛システム「アイアンドーム」で対抗し、ガザに空爆と地上部隊の砲撃を実行。空爆は武器工場やハマス幹部の住居の他、高層ビルを標的としていますが、15日にはAP通信とアルジャジーラが入居しているビルにも空爆を行いました（ただし事前警告により死傷者は出なかった）。

5月16日時点でイスラエル人の死者8名、負傷者523名、ガザのパレスチナ人の死者192名、負傷者900名以上に上っています。

バイデン大統領はイスラエルのネタニヤフ首相とパレスチナ自治政府のアッバス議長と電話会談を行い、双方に暴力の停止を呼びかけました。また、エジプト代表団がガザでハマス、テルアビブでイスラエルと停戦仲介の協議を行っています。

今後の展望について、米国と中東の国際関係も含め、解説します。

\*\*\*\*\*  
イスラエルとハマスの衝突  
\*\*\*\*\*

#### ●衝突の背景と見通し

まずエルサレムでのパレスチナ人とユダヤ人の衝突の背景ですが、4月中旬にイスラエル警察がパレスチナ人の東エルサレムでの集会を制限し、さらに東エルサレムのパレスチナ人住民の立ち退きを命じる判決が言い渡されたことがきっかけで始まりました。そのまま衝突が続き、5月に入ると、ラマダン明けと「エルサレムの日」が迫り、緊張がさらに高まる中、警察はアル=アクサ・モスク内に踏み込み、パレスチナ人を制圧するまでの事態に至りました。

また、パレスチナ自治評議会の選挙が5月22日に予定されていたのですが、4月30日、パレスチナ自治政府が選挙の無期延期を決定しました。選挙で勝利を見込んでいたハマスはこれに反発し、パレスチナ政治の主導権を握ることを狙っていました。

さらに、イスラエルは3月23日の総選挙後を経て、新たな組閣が行われる過渡期にあり（5月5日にリブリン大統領が第2党「イエシュ・アティド」のラピド元財務相に組閣を指示）、リーダーシップが不在という状況にありました。こうした政治的状況もあって、ハマスはロケット弾の発射に踏み切ったとみられます。

では、イスラエルとハマスの戦闘はどこまで続くのか。最も厳しいシナリオは14年のガザでの戦闘のよう

に、イスラエルの地上部隊がガザに侵攻することです。このときの戦闘は2か月近くに及び、ガザのパレスチナ人の死者は2,100人に上りました。

しかし、今回はそこまで至る可能性は低いです。おそらく今週中、長くとも2週間程度で停戦に至ると予想されます。

なぜなら、まずイスラエル側の事情ですが、イスラエルは国内外で戦闘を早期に停止させるよう圧力を受けています。国際的には、アラブ諸国はもちろん（エジプトが仲介に動いています）、最大のパートナーである米国からも暴力の停止を要請されています。

バイデン大統領はネタニヤフ首相と電話会談し、イスラエルへの支持とハマスへの非難を明確に表明しながらも、パレスチナ人の犠牲とジャーナリストの保護にも言及。さらにパレスチナ自治政府のアッバス議長と電話会談を行い、パレスチナとの関係への配慮を見せています。イスラエルには特使を派遣し、ブリンケン国務長官もカタール、エジプト、サウジと連携して停戦の実現に動いています。米国内の事情は後述しますが、民主党内の圧力が強く、バイデン政権がイスラエルに強い圧力をかけていることが見てとれます。

国内的には、総選挙を経て、反ネタニヤフ連合があと一步で実現するところでしたが、今回の突発事態により、ネタニヤフは危機を脱する結果になりました（詳しくは後述します）。ネタニヤフには天佑になりましたが、戦闘の長期化は望ましいシナリオではありません。また、ネタニヤフ自身は、強硬右派ではありますが、基本的に慎重な性格の人物です。

イスラエルの作戦を見ても、ハマスを完全に屈服させるのではなく、軍事インフラを叩くことで、停戦後に反撃を許さないようにすることに重点においているように見えます。特に注目されるのは、「メトロ」といわれるハマスのトンネルへの爆撃です。14年のガザ侵攻でイスラエルはハマスが攻撃に使うためのトンネルを徹底的に叩いており、残っているのはハマスの戦闘員が隠れるための守備に使うためのものといわれています。これを潰せばハマスの脅威は十分に減殺できるわけです。

なお、先週、イスラエル軍がガザに「地上軍が入る」と発表し、メディアが一斉に報じた後、ガザに向けて「地上砲撃を行う」と訂正した一幕がありました。イスラエル軍の担当官は「ただの誤報だ」として謝罪しましたが、実は、あえて地上軍侵攻の情報を流すことで、ハマスの戦闘員をトンネルにおびき寄せるといった策略だったといわれています。真相は分かりませんが、イスラエルであればこうした情報戦はお手のものでしょう。

次に、ハマス側の事情ですが、これまで3,000発ものミサイルを発射していますが、いずれも旧来の兵器にとどまります。イスラエルの安全保障を脅かすような最新型の兵器を見せてはいません。イスラエルのアイアンドームと市民の防衛は有効に機能し、犠牲は最小限にとどまっています。

ハマスにイスラエルの攻撃に対抗する手段はなく、戦闘が長期化すれば、当然ながら被害は甚大になります。それでいてイスラエルにダメージを与えられないということであれば、ハマスが戦闘を続ける意味はなくなります。

こうした状況にかんがみると、イスラエルが地上軍を投入する可能性は低く、ハマスのロケット弾攻撃が終わるのも時間の問題です。したがって戦闘は短期間で終わるはずですが、一方、双方の計算ミスや偶発的な衝突によって、イスラエルに多数の死傷者が発生し、事態がエスカレーションする可能性はゼロではありません。しかしそこまでの事態になっても、やはり地上軍の侵攻には至らず、1~2か月で終わると見込まれます。

#### ●イスラエルの政局

今回の戦闘は、イスラエルの政局に思わぬ効果をもたらしました。それは、第2党イエシュ・アティドのラピド党首を首班とする反ネタニヤフ連合の結成が困難になったことです。

反ネタニヤフ連合は、右派政党「ヤミナ」とアラブ系政党「ラーム」を含めた多数の政党が連立しなければ過

半数が獲れません。しかし、ヤミナの党首ナフタリ・ベネットは、パレスチナ人がユダヤ人に暴力を振るう状況にかんがみ、ラームと手を組むことはできないとして、反ネタニヤフ連合からの離脱を表明しました。

ラピドの組閣期限は6月2日であり、それまでに過半数を獲れなければ、リブリンは他の誰かを指名するか、あるいは再選挙を行うこととなります。ベネットが指名され、連立交渉を行う可能性はゼロではありませんが、おそらくかなり難しいです。

したがって再選挙に至る可能性が高いです。そうなると選挙は秋頃になり、そこまではネタニヤフが首相を続けることとなります。絶体絶命と思われたネタニヤフがここに来て再び息を吹き返しました。おそろべき勝負運です。

イスラエル政治への影響について、もう一つ注目すべきは、アラブ政党の政治関与の可能性が遠のいたことです。イスラエルは植民活動を拡大することでパレスチナ人の権利を制限する一方、アラブ系イスラエル人の政党は体制内で票を伸ばし、政治プロセスの中で一定の影響力をもつようになっていました。今回、ラームが連立政権に加わる可能性が生まれたのもその現れです。

イスラエルの国家が上から主導する形ではありますが、ある意味でアラブ人の政治的・社会的統合は進展していたのです。それが、今回ベネットの離脱により、アラブ系政党の政権参加が実現しないことになりました。これはアラブ人を失望させ、体制の不安定化につながるおそれがあります。

アラブ人の疎外が深刻化することで、00年の第3次インティファダのような事態に陥ることも懸念されています。ただ、今回の衝突とガザでの戦闘は、いくつものユニークな出来事が重なったために起きた、ある意味で偶発的な事態でした。パレスチナ自治政府もインティファダのような全面的な衝突を望んでいません。したがって、少なくとも現時点において、そこまで危機的な状況に至る可能性は低いと考えられます。

#### ●イラン核合意と中東の国際関係

最後に、米国と中東の国際関係に与える影響について述べます。まず今回の衝突がイラン核合意の交渉に悪影響が及ぶとの見方があります。イランはハマスに武器と資金を提供しており、今回の事態でもハマスとの連携が表明されているからです。米国内では共和党議員がバイデン政権に対し、イスラエルへの支持が十分ではない、この状況においてイランの制裁解除を検討するとは論外だ、と非難を強めています。

とはいえ、イランとバイデン政権が核合意の復活を望む状況に変わりはありません。核合意交渉と今回の戦闘に直接の関係はなく、イスラエルに大規模な損害も生じていないので、現時点で深刻な影響が及ぶとは考えにくいです。ただし、戦闘が長期化すれば、米議会がイランのハマス支援の打ち切りなどを制裁解除の条件に含めることを主張するといった動きに出る可能性はあります。

次に、イスラエルがUAEとバーレーンとの間で進めている国交正常化（アブラハム合意）に悪影響が及ぶとの見方があります。たしかにUAEとバーレーンはイスラエルを非難しています。しかし、これもそこまで深刻な影響が及ぶシグナルは今のところ見えません。

とはいえ、パレスチナ人の問題がアラブ人の関心事項に戻ってきたことで、UAEとバーレーン以外の中東諸国との国交正常化交渉は進みにくくなります。サウジの国交正常化は、元々近い将来に実現することは考えにくい（少なくともサルマン国王がいる限り無理）とお伝えしてきましたが、さらに困難になったことは疑いありません。

ただ、ハマスに対しては、イランとの関係の強さもあり、アラブ諸国の多くは、少なくとも政府レベルでは冷淡な対応をとっています。カタールはムスリム同胞団とその分派組織であるハマスを支援していますが、これは例外的なケースです。

先にイスラエルにおけるアラブ人の政治的・社会的統合に言及しましたが、パレスチナの武装闘争に対してアラブ諸国は以前ほどシンパシーを示さなくなっているのが現実です（ただし市民レベルでは、パレスチナにイ

デオロギー的なシンパシーもあり、今回のような衝突があると盛り上がります。ここは国家レベルでの動きと異なる面があります)。アブラハム合意もそうした現実を反映する動きであり、こうしたトレンドは今後も続くと思います。

最後に、米国ですが、バイデン政権はイスラエルへの強い支持を表明し、国連安保理でイスラエルに武力停止を求める声明をブロックしています。この点において米国は孤立しており、「バイデン政権と国連のハネムーンは終わった」と非難する声もあります。

一方、民主党議員の中でも、バーニー・サンダース上院議員やアレクサンドリア・オカシオ・コルテス、イルハン・オマルといった下院議員はパレスチナ人を保護すべきと主張し、バイデン政権に対し、イスラエルに東エルサレムの強制立ち退きを中止するよう求めるよう圧力をかけています。近年、民主党員の中では、イスラエルとパレスチナの間でバランスをとり、中東和平を追求すべきだという意見が勢いを増しています。

民主党といえば親イスラエルだったのですが、時代は変わりました。こうした変化については以下の記事で解説したとおりです。

- ・「イスラエル現代史(16)：米国とイスラエル(3)」(20/2/5)  
<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=8321>
- ・「総集編第8号：中東の合従連衡」(20/9/17)  
<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=8771>

戦闘が長期化し、パレスチナ人の被害が拡大すれば、民主党議員のバイデン政権への圧力はさらに高まるでしょう。それによってバイデン政権と民主党左派の間に亀裂が生じるリスクがあります。ここは今後、注視すべきポイントになります。

\*\*\*\*\*

あとがき

\*\*\*\*\*

■ 同性愛の象徴が、LGBT抑圧の与党議員に？ ロシアのお騒がせデュオ元「tATu」の出馬意向にファンは「失望」(4月30日付東京新聞)

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/101344>

t.A.T.u.の元メンバーが9月のロシア議会選挙へ出馬するとのこと。こちらは本人の出馬表明の動画です。

<https://youtube.com/watch?v=xmN6otePhCw>

ずいぶん印象が変わった感じがしますが、こちらの記事によると、解散してから色々なことがあったようです。

<https://jp.rbth.com/arts/81382-tatu-no-futari-ni-nani-ga-atta-ka>

t.A.T.u.といえばレズビアンイメージが印象的でしたが、当時のロシアはLGBTへの偏見が強かったので、かなりインパクトがあったようです。その後も、社会は変化したとはいえ、なお保守的な価値観は根強く、プーチン大統領もしばしばLGBTに対して差別的な発言をしています。

それにもかかわらず、よりによってプーチンを支持する与党「統一ロシア」の公認候補として出馬するという事で、議論を呼んでいるようです。しかし、実は本人たちにLGBTの性的志向はなく、ある意味でポーズだったことは本人たちも語っていました。上記記事では、どちらかという伝統的な価値観を示唆する発言もしています。

しかし、t.A.T.u.といえば、当時この曲など日本でもずいぶん流行ったなとなつかしく思い出したのですが、

<https://www.youtube.com/watch?v=8mGBaXPIri8>

Youtubeを見ていたら、「Gomenasai」という日本語のタイトルの歌がありました。

<https://www.youtube.com/watch?v=TVGS1XjFpe0>

PVを見ると、80年代の日本のアニメ（『AKIRA』や『DAICON 3』）へのオマージュを詰め込んだ趣きで、なかなか面白いですが、このPVにはプーチンそっくりな悪役が登場しています（1:47～）。これはプーチンとの関係で大丈夫なのか、心配になりますね（苦笑）。

---

The Gucci Post（Copyright 2021 グッチーポスト株式会社）

- Twitter <https://twitter.com/JDWorldBriefing>
- ブログ <https://guccipost.co.jp/blog/jd/>
- メール [jd.world.briefing@gmail.com](mailto:jd.world.briefing@gmail.com)
- 編集部 [inquire@guccipost.co.jp](mailto:inquire@guccipost.co.jp)

※本メルマガの内容は、筆者の個人的な見解であり、他のいかなる個人の見解を代表ないし代理するものではなく、他の個人または組織がその内容に対して責任を負うことはありません。